

『五十六年目の堅信』

マリア・マグダレナ 城野 道代

二〇〇六年四月十六日が今年の復活祭であった。

この日は私にとつて、恩寵あふれる特別なものとなった。それは復活祭のミサの中で、牧野神父様により「堅信」の秘蹟を受けることが出来たことである。最前列にいたし、ミサ中の短時間のことで、皆様には事情が判りにならなかったと思う。

そこで貴重な紙面を頂いたので、そのいきさつを記すことにした。「もしかしたら私は堅信を受けていないのではないか？」まさかと何回も否定しながらもこれを避けがたい事実として受け入れるまで二年近くかかった。

事情はこうである。
一九五〇年四月六日、山口市で十二人の仲間と洗礼を受けた。スペインバスク地方出身のサバリヤ神父様の来日直後、日本における

最初の洗礼式であった。

次の堅信の秘蹟は建築中のザビエル記念聖堂の完成後とされていた。

しかし、私は広島翠町教会に移動していた。職場が変わり住所が移り所属教会にそのたびに、信者証明書を出していた。

紆余曲折を経て城北橋教会に所属し六年が経った。毎年、洗礼、堅信、初聖体等の行われるのを間近で見ている中に疑問がきざした。

自分自身の堅信の場面の記憶がない。洗礼の状況はカラー付で目に浮かぶのに・・・。

はじめは「そんなはずはない」と否定したが、段々不安になってきた。なにしろ半世紀も経っている。信者としての本籍地である山口教会に出かけて行って、確認してもまだ信じられなかった。どこかの教会の連絡もれか記録のミスだと思つた。

結局、間違つたのは私自身で機

会を失つたのだと認めてすぐ牧野神父様に補完の教育を受けることにした。

「堅信」の時期として三つの選択肢を示された。「来年、司教様が来られるのを待ちますか？」と問われて即座に「もう待ちません」と答えた。

思い違いとは云えのんびりと半世紀も経っているのである。たった一人で受けることになったが、特例として神父様から秘蹟を受けることが出来ると判つた。

代母は、私よりはるかに若いのが不思議なご縁でイスラエル巡礼を共にした高木やす子さんが引き受けて下さった。

望外の喜びであった。

また、この度の追跡調査により亡母が、受洗後十年目に幟町教会で堅信を受けていたことを幟町教会からファックスでお知らせいただいた。

後の者が先になるのとはこのことである。母は私より二年後に広

島で受洗したのであった。

私たち親子がお世話になった神父様方はみな故人になられた。

牧野神父様はじめ、城北橋教会の皆様にはこれからもお世話になることだろう。

人との出会いの上に計り知れぬ神の摂理の働いているのを悟り、感謝の中にひたすら歩んで行きたい。

